

法隆寺宝物館めぐり

東京国立博物館ボランティア 法隆寺宝物館ガイドグループ

第1号 令和3年7月発行

ご挨拶

ようこそ「法隆寺宝物館めぐり」へ！

私はガイド役の天人です。これからみなさまを鑑賞の旅にお連れします。
法隆寺宝物館では、聖徳太子ゆかりの寺、奈良・法隆寺から皇室へ献納された宝物（献納宝物）を展示していますが、みなさまはそれがなぜ

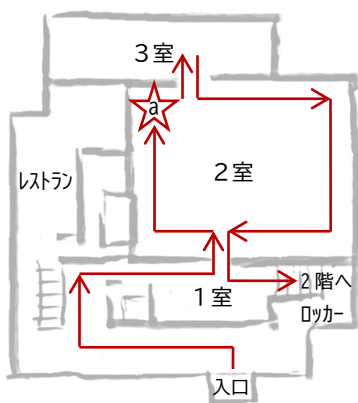
トーハクにあるのか、ご存知ですか？

ちょっと、あの方に聞いてみましょう！



では、スタートです！

今日はこの案内図の順に進みます。



1階展示室

日本で最も有名な歴史上の人物のひとり、聖徳太子。

今年は太子の1400年遠忌にあたり、これを記念して7月から特別展『聖徳太子と法隆寺』が、東京国立博物館（トーハク）で開催されます。そこで、トーハクボランティア法隆寺宝物館ガイドが、お気に入りの作品をご紹介します。

明治時代、全国に廃仏毀釈運動が吹き荒れたことはご存知ですね。仏教寺院は領地を没収され、宝物が破壊されるなど大変な事態に見舞われました。無論、法隆寺も例外ではありませんでした。困窮の危機に瀕した法隆寺は、「宝物を皇室に献納する」という大きな決断をしたのです。

献納された宝物はトーハクの前身、帝室博物館で保管されていましたが、戦後に大部分が国のものとなり、現在に至るまでトーハクで管理されています。



1室 灌頂幡 (7世紀・飛鳥時代)

現在1室には、吹き抜けに下げられた『灌頂幡』のレプリカと『金銅小幡』が展示されています。

「灌頂幡」とは仏教の儀式で使う「幡」のことで、多くは織物でできていますが、国宝の灌頂幡は、とても珍しく金属製です。



国宝 灌頂幡 (部分)

金メッキが施された薄い銅板に、如来、天人、唐草模様などが透かし彫りで表され、髪の毛ほどの細い線でそれぞれの表情まで流麗に刻まれています。

同時代に制作された金銅小幡も、軽やかに衣を翻しながら花や香を捧げ、楽器を奏で天空を舞う天人の姿など、遙か古代の工人達の見事な技がご覧いただけます。



法隆寺 1400年遠忌より

また、忠実に復元されたレプリカからは、当時の荘厳な様子がうかがえます。
(国宝の灌頂幡は特別展に出展のため、令和3年9月14日から展示再開予定)

2室 摩耶夫人および天人像 (7世紀・飛鳥時代)

2室には、法隆寺宝物館のアイドルがいます。

高さ約15cmほどの4つの像『摩耶夫人および天人像』です。

立ち上がり右手を上げているのが、お釈迦様のお母様、摩耶夫人です。摩耶夫人は、出産を前にルンビニー園という花園を訪れます。そこで花の咲いた無憂樹という木の枝に手をかけた時、右脇からお釈迦様が生まれたという伝説があります。この像はその瞬間を表した珍しい作品です。

摩耶夫人は右手を伸ばし、枝をつかむ仕草をしています。足を踏ん張り左手を衣ごとかたく握りしめているのは、出産のために力を入れているのでしょうか。右脇を見ると小さなお釈迦様が合掌しながら生まれ出ています。



その周りには、手に水の入った瓶などを持つ天人の像があり、お釈迦様の誕生を祝っているようです。

3室 伎楽面 (7～8世紀・飛鳥～奈良時代) ※金曜日・土曜日のみ公開

3室には、伎楽で用いられた仮面を展示しています。

伎楽は台詞のない仮面舞踏劇で、7～8世紀には仏教儀式などで演じられ、奈良東大寺の大仏開眼供養でも華やかに行われた記録があります。

東大寺や正倉院にも伎楽面は残っていますが、献納宝物に伝わるもののうち7世紀に作られたクスノキ製のものが日本最古の伎楽面なのです。



7世紀・飛鳥時代 (クスノキ製)

中でも、『呉女、崑崙、力士』は面白い役回りを演じています。

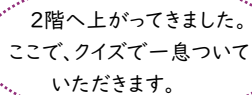
呉女は伎楽の中で唯一の女性で、7世紀に中国で流行った髪型、ふっくらとした頬など、典型的な唐の美人が表現されています。

崑崙は献納宝物の中で一番大きなお面です。半人半獣で肌が褐色、獣のような耳と牙があります。この崑崙が呉女に言い寄り、怪しげな振る舞いをします。ここで、力士が登場。怒り顔でキリリと口を閉じた正義の味方です。崑崙は力士に懲らしめられて、一件落着となります。

(写真の呉女と崑崙は、特別展に出展のため、令和3年8月17日から展示再開予定)

さあ、灌頂幡を眺めながら
2階へ上がりましょう。





A. 1350 B. 1400 C. 1450

